

環境保全型農業を推進し、 遊休農地を解消しよう

～学校給食への食材提供の取り組み～

松川町・松川町農業委員会



令和4年3月 報告



説明内容

- ▶ ① 松川町の農業・農地の現状
- ▶ ② 松川町第5次総合計画での位置づけ
- ▶ ③ 2年間の取り組み
- ▶ ④ 令和3年度の取り組みについて
- ⇒ ⑤ 取り組んで見えてきた課題

松川町のデータ

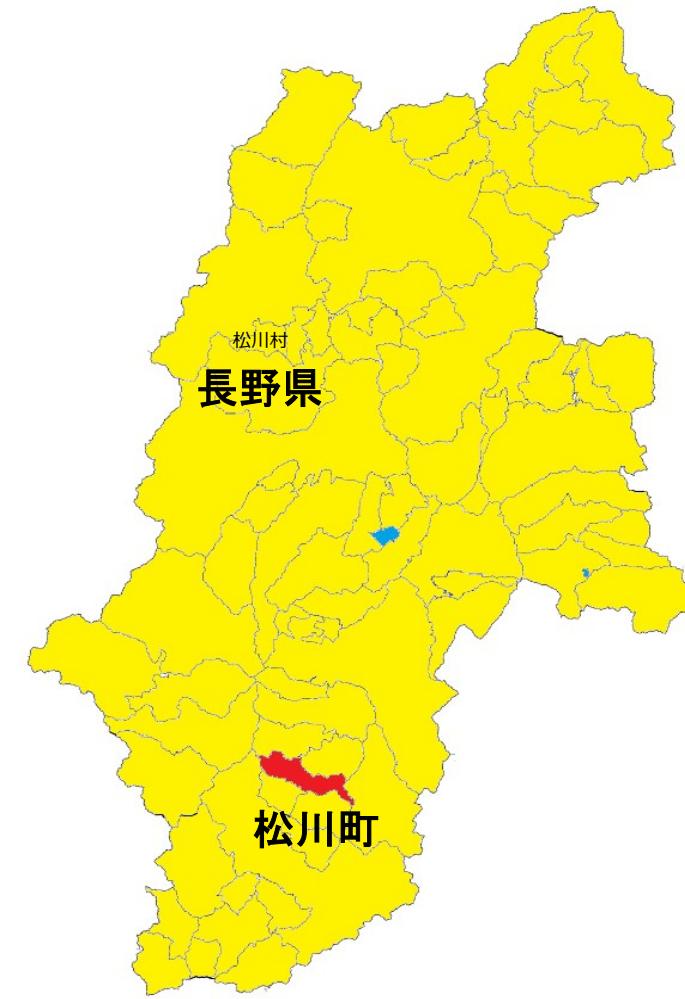
総人口………12,338人 *1
世帯数……… 4,470世帯 *1
農業就業人口… 1,459人 *2⇒1,066人*②
農地面積……… 1,325ha *3
遊休農地面積… 224ha *3
経営農地面積… 748ha *2⇒ 625ha*②

*1松川町調査数字(2022年1月1日現在)

*2 農林業センサス(2015年)

*②農林業センサス(2020年)

*3 松川町農業委員会による利用状況調査(2021年11月)



松川町のデータ



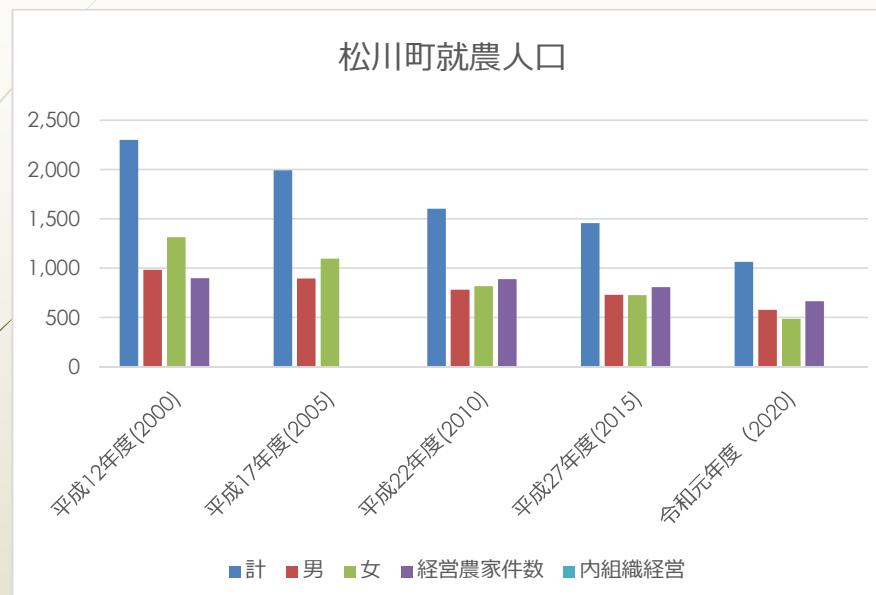
松川町は、長野県南部の下伊那郡の最北、伊那谷のほぼ中央に位置し、東西約21km、南北約6kmで、総面積72.79km²。

町の中央を天竜川が北から南へ流れ、川の東西に段丘が形成され、東側には工業団地と水田地帯が、傾斜地では、水稻、畜産、小梅の栽培などが行われている。西側は、水田地帯から住宅地、商店街、工業団地が開け、梨、りんごなどの果樹栽培が盛ん。

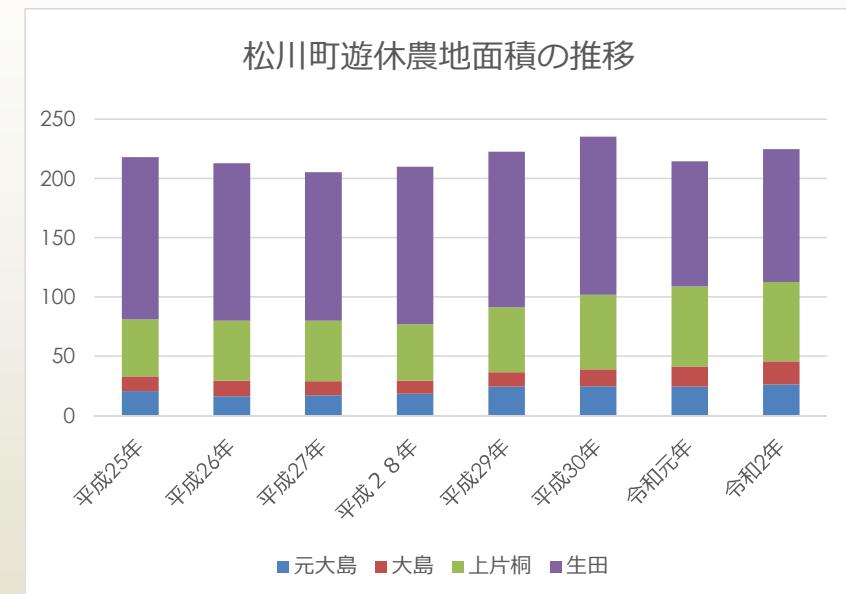
① 松川町の農業・農地の現状

■ 現状

松川町の農業従事者・農地面積・遊休農地の推移



※農業センサスにより



※農業センサスにより

松川町耕作面積 単位ha			
耕作面積	田耕地面積	畑耕地面積	内樹園地
1,030	235	795	604

※令和元年度農林水産関係市町村統計 作物統計調査により（果樹・普通畑についてはH18統計時の割合にて算出）

① 松川町の農業・農地の現状

遊休農地対策として

- 新規就農者の受け入れ支援 ~果樹研修制度~
- 新規法人参入の支援 9件の農地所有適格法人の内、
6件が果樹栽培を中心に行っている
- 労働力の補完 シルバー人材センター、ワーキングホリデー
- 農地の集積・集約化
- 農地の斡旋、マッチングによる流動化
農地相談員を設置し、情報収集及び売買、賃貸借の支援



② 松川町第5次総合計画での位置づけ

いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ

▶ SDGsを踏まえた計画

「持続可能な地域づくり」を考えるうえで、SDGsの視点や考え方を 計画推進の参考とします。

基本方針

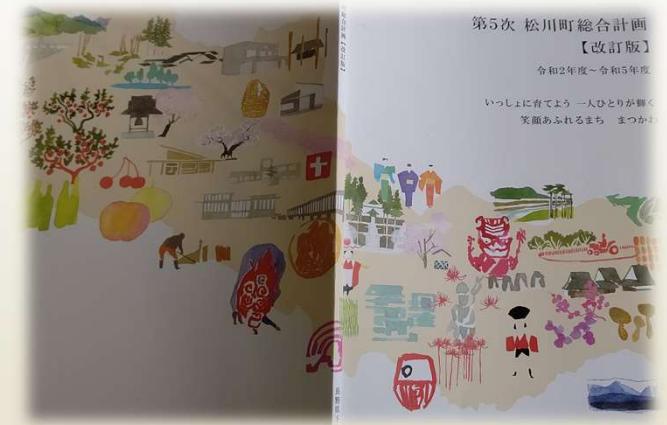
○持続可能な農業の推進

非農家及び保護者等による有機農業の推進を行い、

遊休農地の解消につなげるとともに、学校給食への提供等、
地産地消の促進を目指します。

※ そのほか、自然環境、景観の保全。

健康なくらしづくりとして、食育の推進等にもかかわってきます。



地域に内在する資源・・・遊休農地は地域の宝！

松川町第5次総合計画では

1. 持続可能な地域づくり、
2. 4つのキーワード

(自治・学び・地域に内在する資源・総合的な地域理解)

を掲げ、町づくりを進めていくとしています。

遊休農地を厄介者にせず、活かさない場合には持続可能な地域づくりは無理。

将来に続ける一つの取り組みとして、活動を始めました。

令和2年12月 松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会 発足

松川町の豊かな自然や気候風土の保全・再生のために、
環境保全型農業を推進するとともに、松川町産有機食材を
活用した子どもたちの食事（給食）を推進し、もって松川町
の農業振興と子どもたちの健康で豊かな食生活の実現に
寄与することを目的とする。



生産者、栄養士、学校関係者、商工会、JA、
県、町等が集まり、話し合いが始まりました

③ 令和元年度からの取り組み

令和元年の取り組み

★ 農地を次世代に継承していくために

住民1人1人のかかわりを大切に

2020.2 吉田太郎さんの勉強会
松川町有機農業研究会主催

(長野県発元気づくり支援金事業へ申請)

▶ 1人1坪農園の推進

- ・農地を持たない人へのふれあいガーデン（市民農園）の斡旋
- ・ケーブルテレビにて野菜づくり指南番組を放送
- ・「健康でおいしい野菜をつくる」講演会 野口勲氏



③ 令和元年度からの取り組み

令和2年の取り組み

★ 令和元年の事業に加えて

長野県有機農業推進プラットフォーム担当 吉田太郎さんにアドバイスいただき、事業実施

(長野県発元気づくり支援機事業へ申請)

▶ 松川町環境保全型農業の推進

ア 各種講演会「土壤微生物による物質循環での土づくりを」SOFIX農業推進機構久保幹氏

「菌ちゃん野菜の作り方」吉田俊道氏

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施

ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

▶ 12月 松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会発足



2020.6 吉田太郎さんの勉強会
有機農業と有機学校給食



イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施



栽培品目	生産者	作付面積
①にんじん	牛久保二三男	900m ²
②ネギ	寺沢茂春	500m ²
③ジャガイモ	楽しみまし農 北沢ひろみ	266m ²
④お米	久保田純治郎	1251m ²
⑤玉ねぎ	信州農園 多田英樹	1000m ²



講師：公益財団法人 自然農法国際研究開発センター

R2 野菜、お米の有機栽培研修会の実施

研修会日時	研修内容
① 4/2	作付予定地の土壤等確認
② 4/7	じゃがいも作付け・ニンジン作付け・座学
③ 5/18	田の代掻き（荒代掻き）
④ 6/2	田の代掻き・玉ねぎ圃場、緑肥蒔き・ネギ圃場、インセクトランツの播種・座学
⑤ 8/4	玉ねぎ圃場、緑肥の漉き込み・にんじん圃場、緑肥の漉き込み・座学
⑥ 9/2	玉ねぎ圃場、太陽熱マルチ張り、玉ねぎ播種・座学
⑦ 11/5	玉ねぎの定植・座学
⑧ 12/8	玉ねぎ圃場追肥・ばかし作り
⑨ 2/26	次年度に向けての圃場、土壤確認・座学
⑩ 3/26	土づくりのための緑肥播種・土づくり

実証圃場では、「栽培しながら環境を整えていく」又は「環境を整えてから栽培を始める」方法で有機栽培を、1年間学んできました。

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施



太陽熱マルチをした後に播種。太陽熱マルチは夏に効果あり（春は温度が低い）



リンゴの絞りカスをたい肥に利用。



育土のため、緑肥を育て、漉き込み。漉き込んだ後、太陽熱マルチを実施



水管理、土引き圃場の水平を保つ。最初に雑草の発芽を促し、出たところで、代掻きをして田植えを行う。



インセクトリーフラントとしてのマリーゴールド・ソルゴー。ネギにつく虫の天敵の住処とする。

ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

7月から順に、収穫したものから

学校給食に提供されました。



生産者の皆さんのグループ名も決まりました



栄養士さんの現地視察

ワイド1 2020年(令和2年)7月22日(水曜日)



日本農業新聞

長野県 松川町 第1弾でジャガイモ

長野県松川町で16、17の両日に、小学校の給食に、町内生産者グループ「ましまし農（のう）」で栽培したジャガイモが、給食の食材として供給されました。町農業委員会は、この両日、小学校の給食が2020年度から始められた、無農薬・無化成肥料で栽培した町産農産物を、給食の食材として供給する取り組みの第1弾だ。

今回のジャガイモは、同グループが約3haの畠で栽培し、12日に収穫した「とうや」約100t。「とうや」は、「ましの」のボーネチュー、「じやがいもの」と共通転写される野菜や米を食材に使いたいので、通年使える生産量を期待したい」と話した。大野泰恭君（7）は「シマネギ、米の供給を予定している。地域の魅力、無農薬・無化成肥料で栽培された野菜や米を食材に使って、ニンジン、ネギ、タマネギ、米の供給を予定している。町農業委員会は、これらの農産物の供給と環境保全型農業の推進に向け、3月中旬から生産者の間場（ほじょう）を会場に「栽培実証研修会」を開いている。

給食に無農薬野菜

の食材として使った。栄養費の木下めぐ美教諭は、「どうやは煮物などが合って聞いていたので、小学校のメニューを

子どもたちに人気のシチューや、極力、無農

薬・無化成肥料で栽培さ

れた野菜や米を食材に使

て、ニンジン、ネギ、タマネギ、米の供給を予定

している。

町農業委員会は、これ

の開催に合わせて、3月上旬から生産者

の間場（ほじょう）を会

場に「栽培実証研修会」を開いている。

ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

ゆうき給食とどけ隊による食材提供 1日の（生徒・先生）提供数 松川中学校 361食・中央小学校 580食・北小学校 146食：計1,087食

提供月	実証圃場での収穫物		その他		取り扱い事業者
	食材	注文数量	食材	注文数量	
7月	じゃがいも	162kg			
8月	じゃがいも	73kg	おくら		
9月	－	－	じゃがいも	172kg	野菜は、直売所もなりんへ前日2時から3時までに生産者が搬入。調理前の午前8時～8時半の間にもなりんが各学校の給食室へ搬入、手数料15%
10月	にんじん	9kg	じゃがいも	205kg	
	長ネギ	54kg	キュウリ	14kg	
11月	にんじん	32kg	里芋	57kg	
	長ネギ	110kg	ダイコン	59kg	
	お米（玄米）	540kg	強化米は入れていない		
12月	にんじん	63kg			
	長ネギ	104kg			
1月	にんじん	120kg	里芋	52kg	お米は、長野県学校給食会が、生産者のもとへ受け取りに行き、精米、炊飯を行い通常のご飯と同じように学校へ搬入
	長ネギ	110kg	だいこん 白菜	153kg 66kg	
2月	長ネギ	79kg	だいこん 白菜	91kg 71kg	
3月	長ネギ	50kg			
合計		1,883kg	じゃ612kg にん224kg 長ネギ507kg お米540kg	(その他563kg計2446kg)	

ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

令和2年11月19日（木）食育の日

ゆうき給食とどけ隊の食材（お米・ニンジン・長ネギ）その他町内産の食材（里芋・ダイコン）が使われている給食が、小中学校で提供されました。生産者と子供たちの交流として試食会を予定していましたが、新型コロナ感染拡大防止のため見学のみ行いました。



ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

小中学校では栄養士さんが、児童生徒に栽培の様子を伝えてくれます。

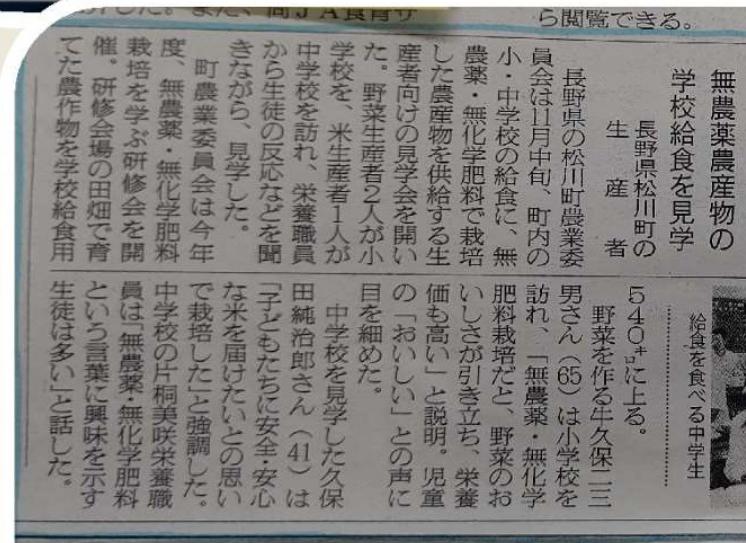


ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

2020.11.21掲載：南信州新聞

地元の野菜おいしいよ

松川町 生産者が給食を見学



令和3年の取り組み

- ★ 令和元、2年の事業に加えて
- ▶ 松川町環境保全型農業の推進

ア 映画上映会「いただきます2 ~ここは発酵の楽園~」



オオタ・ワイン監督と菌ちゃん先生こと吉田俊道氏 トークショー

親子で菌ちゃん圃場体験会（ふれあいガーデン）草＆無煙炭火器による炭で土づくり

イ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施（圃場、参加者の増）新規就農者への支援

ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

エ 下伊那赤十字病院への食材提供

オ ふるさと納税の返礼品としてお米、野菜の提供

- ▶ 循環型農業の推進

町内の畜産農家のたい肥 紹介 牛、ウサギ、豚 たい肥及び液肥の紹介

果樹加工所から排出される絞りかす等のたい肥化見学



(3年目 長野県発元気づくり支援機事業へ申請)

R3 野菜、お米の有機栽培研修会の実施

研修会日時	研修内容
① 4/15	ライムギ緑肥のすき込み、田んぼの均衡化、緑肥用燕麦の播種等
② 5/18	田んぼ荒代かき
③ 6/2	緑肥用ソルゴーの播種、燕麦のすき込み、各種野菜の様子確認、田の代かき インセクタリープランツの播種
④ 7/13	米、野菜の生育確認、玉ネギの収穫後、ソルゴー播種、ニンジン太陽熱マルチ じゃがいもの収穫
⑤ 8/3	玉ねぎ圃場、緑肥の漉き込み・トウモロコシ収穫後すき込み、ニンジン播種、 栄養士、調理員の圃場視察実施、育土についての座学、ばかしづくり講座
⑥ 8/30	水稻、大豆の生育確認
⑦ 9/1	玉ネギの播種確認、野菜の生育確認、ばかしの確認、 翌年のジャガイモ栽培用たい肥投入予定
⑧ 10/14	玉ネギの育苗確認、町内たい肥施設等の見学、長ネギの生育確認
⑨ 12/17	玉ネギの定植後確認、ニンジン収穫確認
⑩ 3/14	玉ネギの生育確認、田んぼや圃場の確認。 「2021振り返りと、2022栽培のポイント」 「松川町有機水田生産性向上プロジェクト」の2点について座学

※ 有機農業取組面積:R1 3.5ha ⇒ R2 4.6ha ⇒ R3 7.4ha

④ 令和3年度の取り組み



6月 初めての玉ねぎ収穫
早速、学校給食へ提供



玉ねぎの圃場へは緑肥を蒔き、次の栽培に備えます。



④ 令和3年度の取り組み

新しい田んぼでの取り組み開始
高低差をなくし、代かきは「深水浅代かき」で
行う。上はトロトロ、下はごろごろを目指す



トウモロコシの周辺に枝豆、
畝間の草も一定の高さで管理
したところ、カエルが良く来て、アワノメイガをよく食べ
てくれました。



給食には、まるくて大き
いサイズが好まれます。
今年は収量が落ち、次の栽培
のために、秋にたい肥を
入れました。



緑肥を蒔いて、たい肥にし、
太陽熱マルチで処理した畠
で、2年目にして立派なニ
ンジンできました。毎日、
給食で食べて貢えています。

④ 令和3年度の取り組み



R3.4.27掲載 日本農業新聞



R3.9.24掲載 日本農業新聞



R3.8.29掲載 中日新聞



R4.1.24掲載 日本農業新聞



R3.9.17掲載 日本農業新聞



R3.11掲載 中日新聞

給食での利用率

種類	H30 年間使用量	R2ゆうき食材 使用量	利用率	R3ゆうき食材 使用量	利用率	
じゃがいも	2,480kg	612kg	24.67%	↓ 346kg	13.97%	
にんじん	3,183kg	224kg	7.03%	↑ 1,277kg	40.11%	
長ネギ	1,067kg	507kg	47.51%	↓ 482kg	45.17%	
お米	7,664kg	540kg	7.04%	↑ 2,520kg	32.88%	
玉ねぎ	4,450kg	0	0%	↑ 662kg	14.88%	
計	18,844kg	1,883kg	9.99%	↑ 5,287Kg	28.05%	

④ 令和3年度の取り組み

提供月	実証圃場での収穫物			その他	
	食材	注文数量	価格 1kg当り	食材	注文数量
7月	じゃがいも	177kg	270円	きゅうり	36kg
	玉ねぎ	439kg	200円	ズッキー ニ スイート コーン	48kg 232本
8月	じゃがいも	62kg	270円		
	玉ねぎ	223kg	200円		
9月	－	－	－	－	－
10月	じゃがいも	48kg	270円	カブ	30kg
	長ネギ	71kg	400円		
11月	にんじん	94kg	270円	里芋	83kg
	長ネギ	108kg	400円	だいこん	70kg
	お米	2,520kg	400円	カブ	41kg

提供月	実証圃場での収穫物			その他	
	食材	注文数量	価格 1kg当り	食材	注文数量
12月	にんじん	355kg	270円	だいこん 白菜	165kg 118kg
	長ネギ	99kg	400円	カブ サツマイモ 里芋	19kg 34kg 31kg
	にんじん	344kg	270円		
1月	長ネギ	75kg	400円	だいこん カブ	193kg 19kg
2月	にんじん	303kg	270円	里芋	54kg
	長ネギ	99kg	400円	だいこん	193kg
3月	にんじん	181kg	270円	だいこん	69kg
	長ネギ	30kg	400円	大豆	1kg
	じゃがいも	59kg	270円		
合計					
主要5品目		5,287kg			
その他		1,154kg		スイートコーン232本 (62kg)	
計		6,441kg		合計 6,503kg	

学校給食に取り組みを始める際に…

1. 食材の必要量確認 (栄養士の先生に食材の発注表1年分を提出いただく)
2. 生産希望者との打合せ (必要数を伝える、販売金額の提示)
3. 教育委員会・学校への説明 (環境にやさしい栽培方法で生産された食材の提供、金額についての協議)
4. 食材搬入についての打合せ (搬入業者、搬入の方法等協議)



ウ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

学校給食提供に至るまで

時 期	内 容
令和元年9月	食材の必要量確認・生産希望者との打合せ
令和元年11月19日	食育の日に合わせ、お米、ジャガイモの提供（試食会） 小学生保護者への説明会
令和元年12月23日	町内3校 教頭先生・栄養士の皆さんと協議
令和2年1月	食材の搬入についての打合せ（各直売所・及びＪＡ）
令和2年3月	町教育委員会との打合せ
3月～4月新型コロナウイルス感染拡大防止のため、 学校が休業に。給食の提供も一時停止。	
令和2年4月	長野県学校給食会とお米の炊飯、搬入方法についての打合せ
令和2年6月～月1回	生産者、栄養士、直売所の皆さんにお集まりいただき、注文内容、 搬入方法、価格についての打ち合わせを実施。
令和2年7月～	収穫された野菜の提供開始

⑤ 取り組んで見えてきた課題

いざ、学校給食への提供が始まりました。

1. 直売所への搬入 サイズの選別、
洗浄、皮むき等が必要
2. 数量が足りない、天候不良で注文数
に対応できない。
3. 虫がいる・傷みがある・
曲がっていて機械に入らない
4. 希望価格交渉



1. 生産者の皆さん対応。
洗浄の機械等を購入する方も。（人参・里芋）
2. 最低、3営業日前に直売所に連絡。
別発注で対応。
3. 虫・・・規模が大きい学校では敬遠される（白菜）
傷み・ある程度まで皮をむき対応（玉ねぎ）
曲り・保存方法の検討（長ネギ）
4. 一定価格で調整、町の地産地消補助金にて
有機食材についての項目を加えた

有機食材の価格を決める際に・・・

中央小学校 学校給食注文内容 (1kg当り)										
	品目	じゃがいも		たまねぎ		長ネギ		にんじん		お米(確定) (米+精米炊飯)
最低価格	H30	162	円	108	円	410	円	194	円	-
	R2	220	円	120	円	350	円	160	円	-
最高価格	H30	356	円	313	円	731	円	421	円	-
	R2	590	円	290	円	430	円	735	円	-
平均	H30	260	円	177	円	499	円	233	円	399 円
	R2	326	円	167	円	385	円	316	円	322 円
ゆうき給食とどけ隊 R2価格		260	円	-	円	380	円	240	円	400(473) 円
ゆうき給食とどけ隊 R3価格		270	円	200	円	400	円	270	円	400円(473)

⑤ 取り組んで見えてきた課題

学校給食調理員の皆さんとの意見交換会

R3.7.21 毎月実施している、栄養士さんと生産者、直売所の方との打ち合わせ会に、調理員の皆さんにも参加いただく。

意見交換のなかで、こういった取り組みを知らなかったと意見アリ。

R3.8.3 調理員の皆さんとの希望により、実証圃場の現地見学をしていただく。

R3.8.10 環境保全型農業の推進により取り組んできた内容の説明会実施



給食での利用率

種類	H30 年間使用量	R2ゆうき食材 使用量	利用率	R3ゆうき食材 使用量	利用率	
じゃがいも	2,480kg	612kg	24.67%	↓ 346kg	13.97%	
にんじん	3,183kg	224kg	7.03%	↑ 1,277kg	40.11%	
長ネギ	1,067kg	507kg	47.51%	↓ 482kg	45.17%	
お米	7,664kg	540kg	7.04%	↑ 2,520kg	32.88%	
玉ねぎ	4,450kg	0	0%	↑ 662kg	14.88%	
計	18,844kg	1,883kg	9.99%	↑ 5,287Kg	28.05%	
	慣行米3割	有機米7割	有機野菜4割	合計		
中学校	407,196	320,751	137,470	865,417		
中央小	553,455	398,937	253,300	1,205,692		
北小	101,923	87,064	44,990	233,977		
合計	1,062,574	806,752	435,760	2,305,086		地産地消補助の実績

今後の取り組み

松川町ゆうき給食とどけ隊

指導者講習会を受け、メンバー内で有機栽培を教えられるように考えています。

実証圃場での研修を受けながら、有機栽培を学んでいます。

環境保全型農業を推進し、化学肥料、農薬をなるべく使わない農業として進めてきました。

育土を学ぶことにより、「農薬を使わないから安全」という考え方や、「有機栽培だから虫がいる」、「虫に食べられる野菜はおいしい」は、間違っていることに気づきました。

元気な土で育ったお米や野菜が元気になり、虫も病気も寄ってこないことを知りました。「化学肥料、農薬を使わない」ではなく、「使わなくても大丈夫」な農産物になります。

育土には、手間や時間、タイミングを見極めることが大切で、農家の方の経験値が必要になりますが、その経験値をフラットにするための肥料や農薬等が使われています。

この経験値を実証圃場研修会で学ぶことができ、継続して学ぶことにより、生産量や質の良さが現れてきています。マニュアルも、2021年分を追加し再構築する予定です。

環境にやさしい持続可能な農業を学び、実践し始めたところです。ぜひ、この取り組みと一緒に行っていただける方を募集していきます。

地産地消による経済の循環を構築するために多くの方にこの取り組みについて知っていただけたらと考えています。

元気づくり支援金の
優良事例として
表彰されました！

栽培マニュアルを作成しています。2021の取り組みを構築中です。
多くの方に参加いただけるよう、継続的な活動を続けていきたいと思います。

令和2年度の元気づくり支援金の優良事例として南信州地域振興局長として表彰していただきました。令和3年12月に授賞式に参加しました。



令和3年12月15日（水）に飯田合同庁舎にて開催された、令和2年度長野県地域発元気づくり支援金 優良事例表彰式で、当町から「健康な保全型農業の推進」事業が、南信州地域振興局長賞として表彰されました。

タウンシャツダイアリー

2/14 伝えたい日本の“サステナブル”

サステナアワード2021
伝えたい日本の
“サステナブル”
受賞作品↓

農林水産省などが主催したサステナアワード2021において、食と農林水産業の取組動画(応募作品)の中から、松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会「ゆうき給食とどけ隊の思い…」が優秀賞(審査員特別賞)を受賞しました。

チャンネルYOU制作の動画、～ゆうき給食とどけ隊の想い～がサステナアワード2021で優秀賞(審査員特別賞)を受賞しました。
令和4年2月にオンラインで授賞式に参加しました。



～ 以上です ありがとうございました。～